

令和6年4月30日14時00分
姫路河川国道事務所

洪水からみんなの地域を守ろう

～梅雨や台風にもむけて水害に備えるための「水防月間」が始まります～

国土交通省では、防災・減災の取組の一環として、梅雨や台風の時期を迎えるにあたり、国民一人ひとりが水防の意義及び重要性について理解を深められるよう、毎年5月(北海道は6月)を「水防月間」と定めています。期間中は、姫路河川国道事務所管内の加古川・揖保川で、あらゆる関係者が協働して治水対策に取り組む「流域治水」の実効性を高める重要な取組の一つとして、様々な取組を実施します。

【「水防月間」の取組】(5月1日～5月30日)

① 水防月間の周知 [資料1](#)

- ・広く水防の重要性や基本的な考え方の普及啓発を図るため、水防月間に関するパンフレットやチラシを事務所管内、道の駅、加古川市防災センター等に配置、各種イベント時に配布。
- ・「流域治水」ポータルサイトの運用を開始し、水防に関する動画の放映や防災関連情報をわかりやすく一覧化するなど、「流域治水」の自分事化に繋がります。

② 水防上、特に注意が必要な場所の点検 ※1 [資料2](#)

- 【目的】洪水時の迅速な水防活動に備えて、水防活動が必要な箇所の現地確認等を行います。
- 【内容】各市町の担当者や水防団等、河川管理者が共同で巡視を行い、水防活動を行う上で特に注意を要する箇所(重要水防箇所)等を確認します。

③ 水位・雨量観測所等の点検 ※2 [資料3](#)

- 【目的】市町の避難情報発表のトリガーとなる水位情報の計測に問題が無いか等を確認します。
- 【内容】水位・雨量観測所等の河川に関する施設を点検し、必要な補修等を行います。

④ 水防に従事する職員への研修会 [資料4](#)

- 【目的】消防団等が正しく情報を理解し、水防活動を実施できるように研修会を実施します。
- 【内容】近年の水害発生状況や水防活動の事前の備え、情報収集ツールの紹介等を行います。

⑤ 洪水対応演習、樋門操作等の訓練 [資料5](#)

- 【目的】洪水時の迅速かつ円滑な対応に備えて、洪水を想定した訓練を実施します。
- 【内容】関係機関と連絡体制や警報発表の手順の確認、河川状況の情報収集等を行います。

※1、※2:取材可能(別途、開催日時や実施場所等について記者発表予定)

【水防に関するその他の取組】

① マイ・タイムライン作成講座 [資料6](#)

② ワンコイン浸水センサ実証実験 [資料7](#)

<取扱い> -

<配布場所> 兵庫県政記者クラブ、中播磨県民センター庁舎内記者室、西播磨県民局
庁舎内記者室、北播磨県民局記者クラブ、加古川記者クラブ

<問い合わせ先> 国土交通省近畿地方整備局 姫路河川国道事務所

- 副所長 きたがき ひろふみ 北垣 啓文 電話 079-282-8211(代表)
- 加古川・揖保川流域治水室 ながた よしゆき 永田 佳之

① ホームページ <https://www.kkr.mlit.go.jp/himeji/index.php>

② X(旧 Twitter) https://twitter.com/mlit_himeji

①



②





水害を防げ!

©THE MAINICHI NEWSPAPERS. All rights reserved. ©八女市消防団

洪水から守ろうみんなの地域



水防月間

令和6年 **5月1日** 水 ~ **5月31日** 金

北海道は
令和6年6月1日土~30日日

主催：国土交通省、内閣府、都道府県、水防管理団体（市町村等）

後援：警察庁、防衛省、総務省消防庁、全国知事会、全国市長会、全国町村会、NHK、一般社団法人日本新聞協会、一般社団法人日本民間放送連盟、日本赤十字社

協賛：全国水防管理団体連合会、公益社団法人日本河川協会、全国治水期成同盟会連合会、一般社団法人建設広報協会、一般社団法人全国海岸協会、公益社団法人全国防災協会、一般財団法人河川情報センター、全国建設弘済協議会

ハザードマップ

▶ <https://disaportal.gsi.go.jp/>



浸水ナビ

▶ <https://suiboumap.gsi.go.jp/>



川の防災情報

▶ <https://www.river.go.jp/>



水防上、特に注意が必要な場所の点検

～沿江市町の水防関係者と水害への備えについて情報共有を実施～

姫路河川国道事務所では、洪水期を前に、所管する加古川、揖保川について、関係水防機関（国、県、関係市町村、水防団等）、災害協定会社及び地域住民の方々と、水防上、特に注意が必要な場所の合同巡視を行います。洪水時に危険となる区間や水防倉庫の資材の備蓄状況の確認を行い、水防活動に万全を期すことを目的としています。

訓練概要（令和5年度）

概要

日 時：加古川水系【令和5年8月24日（木）9:30～17:30】

揖保川水系【令和5年8月25日（金）9:00～17:30】

参加者： 加古川市治水対策課・消防本部警防課・防災対策課（3名）、高砂市危機管理室・消防課・治水対策課（4名）、小野市道路河川課・消防署南分署長・防災グループ（3名）、加東市（2名）、姫路市（2名）、たつの市建設課・危機管理課（2名）、宍粟市次長・危機管理課（2名）、太子町企画政策課（1名）、姫路土木事務所所長補佐（1名）東播磨県民局（4名）、加古川土木事務所（1名）、加東土木事務所（1名）、姫路河川国道事務所（2名）

現地での共同点検状況（令和5年度）

加古川右岸3.8k付近



【高砂市との共同点検状況】概要説明

揖保川左岸35.2k付近



【宍粟市との共同点検状況】神河橋

揖保川右岸11.8k付近



【たつの市との共同点検状況】龍野新大橋

揖保川右岸2.2k付近



【姫路市との共同点検状況】基礎地盤漏水

万願寺川左岸1.6k付近



【小野市との共同点検状況】越水及び基礎地盤漏水

加古川右岸4.8k付近



【加古川市との共同点検状況】洗川樋門

参加機関からの意見

- 現地にて具体的な水防活動内容とともに現地の確認箇所を確認することによってよりビジョンが明確になった。
- 来年度以降も実施することによって、知識の引継ぎをやっていきたい。

水位・雨量観測所等の点検

～出水期を想定した点検を実施し大雨に備える～

本格的な洪水期に備え、水位・雨量観測所(水文観測所)の重点的な点検を行います。
 水文観測所において得られる水位や雨量のデータは、出水時に発表する洪水予報(氾濫注意情報や氾濫警戒情報など)や、水防警報(水防団の出動など)、市町の避難情報発表のトリガーとなるなど、「国民の生命・財産を守るための重要な情報」の基礎となる非常に重要なデータです。

点検内容(令和6年度予定)

概要

- 日時: 令和6年5月17日(金)
 場所: 板波水位・雨量観測所
 実施内容: 水位・雨量観測所における
 清掃、点検、土砂撤去作業、
 動作確認 等
 目的: 市町の避難情報発表のトリガー
 となる水位情報が計測できている
 か等を確認

板波水位・雨量観測所



水位・雨量観測所等の点検状況(令和5年度)



雨量計の信号線点検



雨量計の清掃



水晶式水位センサー動作確認



水位センサー設置部周辺 土砂除去作業



電波式水位センサー動作確認

水防に係る職員への研修会

～消防団・水防団へ水防活動に関する研修会を開催～

加古川・揖保川周辺で活動する消防団や水防団が、避難情報や近年の水害等を適切に把握し、水防活動に備えることを目的に、近年の水害発生状況や水防活動に資する事前の備え、情報収集ツールの紹介等の講義を開催します。

令和5年度は、加古川市にて開催し、加古川・揖保川周辺で活動する若手消防職員約60名が参加されました。研修会では近年の水害発生状況や水防活動に資する事前の備え、情報収集ツール等についての講義を行いました。

水防研修会概要(令和5年度)

概要

日時: 令和5年7月14日(金)

場所: 加古川市防災センター2F 会議室

参加者: 加古川市消防本部、加古川市治水対策課、加古川市防災対策課、姫路市消防局、明石市消防局、北はりま消防本部、小野市消防本部、三木市消防本部、高砂市消防本部【合計約60名】

講義議事・主な講義内容

(1) 避難情報および情報収集について

- 河川や気象に関する情報収集方法や避難情報の見方、避難時の留意点について講義を行いました。(講師: 調査課 永田)

(2) 近年の水害と事前の備えについて

- 全国における近年の主な水害の発生状況や最近の雨の降り方の特徴、国や自治体・関係機関と連携した取組実施状況、防災情報の活用、住民への周知して頂きたい事項(避難への心構え、事前の備え)について講義を行いました。(講師: 副所長 北垣)

※動画を交えながら講義を行いました。

講義の様子



【講義状況】「避難情報および情報収集について」



【講義状況】「近年の水害と事前の備えについて」

川の防災情報について(概要)

- 「川の防災情報」は、大雨などの際に、雨や川の水位の状況などを、インターネットを通じてリアルタイムに配信し、避難判断等に必要情報を入手できるウェブサイト。
- 行政の防災行動や住民の避難行動に資する情報として、雨量や水位、CCTV画像などを集約している。

講義資料(一部)

参加者の感想

参加された方々より「避難について理解が深まった」「これからの災害時での情報収集に役立てたい」など、今年度の水防活動に資する有意義な研修とすることができました。

洪水対応演習、樋門操作等の訓練

～本格的な出水期を想定して、関係機関と連携した演習を実施～

6月からの本格的な出水期を迎えるにあたり、防災体制に万全を期することを目的として、姫路河川国道事務所管内の加古川、揖保川での出水を想定した洪水対応演習、樋門操作等の訓練を実施します。

洪水対応演習

概要

日時: 令和6年5月9日(木)
場所: 姫路河川国道事務所、
加古川大堰

主な演習内容

- ・ 加古川及び揖保川の現場状況の情報収集
- ・ 加古川の氾濫を想定して加東市長と電話でのホットライン実施
- ・ 神戸地方気象台と洪水予警報の発表手順について確認
- ・ 被災箇所の応急復旧対応について確認



現場状況の情報収集や神戸地方気象台と洪水予警報発表手順の確認を実施



電話連絡にてホットラインを実施



堰操作訓練

加古川大堰放流連絡会議

加古川大堰の放流について、関係機関との連絡を密にし、その円滑な実施と放流による下流の事故防止のため、「加古川大堰放流連絡会」を開催します。会議では、関係機関への円滑かつ迅速な通知を行うため、洪水警戒体制の発令基準、下流巡視の手順、放流通知の連絡先などを確認し、意見交換を行います。

概要

日時: 令和6年5月10日(金)
場所: 加古川大堰



会議開催状況(R5)



大堰操作室見学

樋門操作訓練

樋門の確実なゲート操作が行えるように操作方法の確認や、ウェアラブルカメラ等で遠隔地の職員と情報伝達の確認を通して、出水期に備えます。

概要

日時: 令和6年5月21日(火)
場所: 加古川・揖保川の各樋門



職員による操作訓練(小野)



点検シミュレータ(VR技術)



ウェアラブルカメラで撮影

建屋外観の状況の中継(龍野)

マイ・タイムライン作成講座

～安全な避難に向けて、自分自身が取る防災行動を時系列で整理～

マイ・タイムラインは住民一人ひとりのタイムラインであり、台風の接近等によって河川の水位が上昇する時に、自分自身がとる標準的な防災行動を時系列的に整理し、とりまとめるものです。

時間的な制約が厳しい洪水発生時に、行動のチェックリストや避難判断のサポートツールとして活用されることで、「逃げ遅れゼロ」に向けた効果が期待されています。

姫路河川国道事務所では、加古川・揖保川の沿川市町と協力し、マイ・タイムライン作成講座を開催しています。



「逃げキッド」
(マイ・タイムライン)

加古川沿川市町におけるマイ・タイムライン作成講座の実施状況

- 開催日: R5.8.7
- 場 所: 加東市
- 参加者: 18人



- 開催日: R4.11.12
- 場 所: 小野市
- 参加者: 44人



マイ・タイムライン作成の様子



- 開催日: R6.3.10
- 場 所: 加東市
- 参加者: 18名



- 開催日: R2.9.26
- 場 所: 加古川市
- 参加者: 38人



コロナウイルス感染症対策を講じ、
スクール形式で講座を開催

揖保川沿川市町におけるマイ・タイムライン作成講座の実施状況



- 開催日: R3.10.16
- 場 所: たつの市
- 参加者: 39人



コロナウイルス感染症対策を講じ、
スクール形式で講座を開催



マイ・タイムライン作成の様子

- 開催日: R6.2.17
- 場 所: 姫路市
- 参加者: 約40人



姫路市マイ・タイムライン作成講座実施状況

ワンコイン浸水センサ実証実験

～浸水の危険性がある地域にセンサを多数設置し、リアルタイムに状況を把握～

国土交通省では、浸水状況をいち早く把握し迅速な対応を行うため、令和4年度より、浸水の危険性がある地域に国や自治体等がワンコイン浸水センサを設置して実証実験を実施しており、リアルタイムに浸水状況を収集・共有する仕組みの構築に向け、センサの特性や情報共有の有効性等を検証しています。

実証実験では、局地的及び突発的な豪雨により発生する内水氾濫を把握するため、過去頻繁に溢水が発生した水路や加古川・揖保川沿川等に国と自治体が連携してセンサを設置しています。

浸水状況を把握する仕組み

堤防の越水・決壊などの状況や、地域における浸水状況の速やかな把握のため、浸水センサを企業や地方自治体等との連携のもと設置し、情報を収集・整理する仕組みを構築



ワンコイン浸水センサ設置、活用状況

兵庫県内の参加自治体

加古川市、南あわじ市、姫路市、豊岡市、三田市、朝来市、養父市、西脇市、小野市、加東市、播磨町（R6.1時点）



ワンコイン浸水センサ
外観(リプロ社製)



ワンコイン浸水センサ
設置状況①(加古川市)



ワンコイン浸水センサ
設置状況②(加古川沿川)

- R4,5年度には突発的な豪雨の際に水路等からの溢水を感知し、迅速な水門・樋門の操作が行われるなど、浸水被害の軽減が図られた。
- 現在、加古川市等において、API連携による災害情報の一元化や、データ連携基盤の広域自治体間での共同利用等が進められている。